

平成25年度 活動概要と進捗状況

		目的・体制等	平成25年度活動の進捗状況	
調査委員会活動 (JKR補助事業)	モノ・コトづくり-長寿社会エコシステムの構築-に関する調査等の調査検討委員会	<p>1. 目的、内容 震災や国際競争の激化などの急激な環境変化に加え、コトづくりの視点から新たな研究開発体制構築に向けた包括的な検討を行う。</p> <p>2. 委員会構成 企業委員 7社 7名 学識委員 3名 本検討委員会を親委員会とし、下に5専門委員会を設置する。 ①研究開発マネジメント専門委員会 ②技術系人材・教育専門委員会 ③産学連携検討専門委員会 ④環境技術調査専門委員会 ⑤検査・分析専門委員会</p> <p>3. 海外ミッション</p>	委員会	<p>①6/27 検討委員会を開催し、今年度調査内容について議論した。調査の論点について意見交換した。具体的な調査は5つの専門委員会（研究開発マネジメント専門委員会、人材教育専門委員会、産学連携検討専門委員会、環境技術専門委員会、検査分析専門委員会）にて実施することとした。</p> <p>②2/25 まとめの検討委員会を開催。</p> <p>③長寿社会のエコシステム構築に関する委託調査を9月から1月にかけて実施。</p>
		海外ミッション	<p>①W-FIRA調印式及び米国IRI75周年記念事業参加（米国ワシントン） 5/21、標記調印式に、会長の命を受けて専務理事が出席し、協定文にサインした。また、会員企業等民間の役員2名と専務が、5/21～24に開催された標記記念事業に出席し、米国におけるイノベーションの取り組み等について情報収集し、意見交換した。</p> <p>②10/3,4 欧州EIRMAイベントに参加を通じ、欧州企業での価値創造に対する研究開発における役割に関する調査を実施。</p> <p>③10/24、スイスで開催されたEIRMA主催のCTOフォーラムに会員企業の役員クラスが参加した。</p>	
	研究開発マネジメント専門委員会	<p>1. 目的、調査方針 競争力強化に向け、研究開発のマネジメントのあり方のヒントを探ることを目的とし、以下の点を中心に調査を行う。 ①コトづくりの視点を加えたビジネスモデル ②価値づくりと研究開発との関連 ③モノづくりの革新の可能性</p> <p>2. 委員会構成 企業委員 16社 20名 学識委員 2名 委員長：(株)竹中工務店 技術研究所 大野 副委員長：(株)コマツ 開発本部 富樫主幹 大日本印刷(株) 研究開発・事業化推進本部 渥美エキスパート</p>	準備委員会	①4/24
			委員会	①7/25、②10/18、③12/17、④12/17
			国内訪問調査・ヒアリング調査	11/8 公開講演会及び調査訪問調査 シグマクシス 「「コト」作りモデル考察～価値創造モデルの進化～」
			講演会	<p>10/18 「モノ・コトづくりにおけるビジネスの構築と研究開発マネジメントの関わり」 アイキットソリューションズ代表 生島氏</p> <p>12/17 「モノ・コト作りにおける3Dプリンタのインパクト」 芝浦工大 デザイン工学部 安齋教授</p> <p>12/17 「モノ・コト作りにおける3Dプリンタのインパクト」 3Dシステムズ・ジャパン シニアセールスディレクター 宇野氏</p> <p>1/31 「社会価値創造に向けたNECの研究開発」 日本電気 研究企画本部 主席主幹 橋本氏</p> <p>1/31 「イノベーション@シーメンス」 シーメンス・ジャパン 技術本部 部長 シバシンハ氏</p>
			アンケート調査	<p>研究開発を実施している大手企業約1,000社を対象に実態調査を12月に実施。 〔主な調査項目〕 ① 研究開発基礎データ、② 研究開発環境の変化、 ③ 新市場マーケティング、④ 研究開発マネジメント（体制、人材）を実施。うち①と②は定点観測。③と④は本年度特出し項目。</p>

		目的・体制等	平成25年度活動の進捗状況	
調査委員会活動（JKA補助事業）	技術系人材・教育専門委員会	<p>1. 目的、調査方針 昨年度までの調査結果を踏まえ、ひき続きグローバル化を視野に入れ、全体のテーマとしてのコトづくりの観点を加え、コトづくりで活躍している企業の経営・事業方針と、それに基づく人材育成と組織風土についての先進事例を調査する。</p> <p>2. 委員会構成 企業委員 10社 14名 学識委員 3名 委員長：(株)三菱総合研究所 石塚主席研究員 副委員長：住友ベークライト(株) 村山副技師長 日本精工(株) 上保主務</p>	準備委員会	4月26日
			委員会	①6/19 ②7/2 ③10/1 ④10/22 ⑤11/5 ⑥1/29 ⑦2/26
			国内訪問調査	11/5 コクヨ MOV、品川オフィス
			海外訪問調査	11/23～30 タイ・シンガポール進出研究開発拠点等を他委員会と合同で実施 訪問先：トヨタ、デンソー、パナソニック、V-CUBE、東レ、泰日工業大学、南洋工科大学、泰日経済技術振興協会、ジェトロ
			講演会	<p>5/30 「グローバル化時代のイノベーター人材育成」～世界の知で創る～ 多摩大学 知識リーダーシップ総合研究所 所長 徳岡晃一郎教授</p> <p>7/ 2 「IBMのグローバル経営・イノベーション経営の秘密!？」 日本IBM 理事 伊藤久美氏</p> <p>10/ 1 「花王の良きモノづくり」 花王 経営戦略室 部長 田中猛訓氏</p> <p>10/22 「東京大学大学院理学系研究科での 技術系人材育成の取組」 東京大学大学院 理学系研究科 副研究科長 山内薫教授</p> <p>1/29 「NTTデータにおけるイノベーションに向けた取り組みと人材育成」 NTTデータ 技術開発本部 副本部長 星敬一氏</p>
	産学連携検討専門委員会	<p>1. 目的、調査方針 産学連携における現状や問題を把握することを目的とし、特に以下の点について調査を行う。 ・産学連携の10年間の総括とこれからの展望</p> <p>2. 委員会構成 企業委員 6社 8名 学識委員 2名 委員長：古河電工(株) 橘マネージャー 副委員長：東京大学 算プログラムオフィサー</p>	準備委員会	①4/23
			委員会	①7/11、②8/29、③9/26、④10/17、⑤11/21、⑥1/30
			国内訪問調査	5/23 「早稲田大学における博士キャリア問題ヒアリング調査」 早稲田大学博士キャリアセンター 高橋事務局長
			講演会 (シンポジウム予定)	本専門委員会の委員及び元委員によるヒアリングにより、「産学連携の10年間の総括とこれからの展望」をテーマとして調査・検討を実施。
	環境技術調査専門委員会	<p>1. 目的、調査方針 環境技術や環境ビジネスに関わる政策動向、技術動向、ビジネス動向を俯瞰的にとらえ、わが国の産業・企業が抱えている社会システムに係る課題を踏まえつつ、これらの実証を通じて得られた成果をもとに、会員企業の連携による政策提言や技術開発提案を実施する。 ①環境ビジネスの実施状況 ②環境政策の動向 ③環境技術開発の動向 ④スマートコミュニティ等における環境関連技術の総合実証状況の調査</p> <p>2. 委員会構成 企業委員 12社 13名 委員長：清水建設(株) 山崎上席マネージャ 副委員長：JFEテクノロジー(株) 石野理事</p>	準備委員会	4月10日
			委員会	①6/26 ②7/10 ③8/28 ④9/18 ⑤10/09 ⑥11/13 ⑦1/15 ⑧2/13
			国内訪問調査	7/10 横浜市スマートコミュニティ（横浜市、東京ガス、住友電工、東芝、積水ハウス） 8/28 Air Liquideつくば研究所 9/18 産総研 関西センター
講演会			<p>6/26 「清水建設新本社～ゼロ・カーボンをめざして～」 清水建設 技術研究所上席マネージャ 山崎雄介氏</p> <p>11/13 「クラウド時代のエネルギーマネジメント」 NTTコミュニケーションズ 先端IPアーキテクチャセンタ 境野哲氏</p> <p>11/13 「国内外の環境ビジネス市場の概況 2013年版」 三菱総研 環境・エネルギー研究本部 主任研究員 高島由布子氏</p> <p>1/15 「久慈市（岩手県）使用電力見える化システム」 東芝ソリューション 東北支社 主任 斉藤憲二氏</p> <p>1/15 「環境政策動向ー2013年を振り返ってー」 三菱総研 経営コンサルティング本部 杉下寛樹氏</p>	

目的・体制等		平成25年度活動の進捗状況	
検査・分析専門委員会 シンポジウム等 学生への出張講義、企業見学	1. 目的、活動方針 検査・分析業が直面している課題解決を目的に、各ワーキンググループ (WG) が中心となり、以下の活動を行う。 ①検査・分析業に関する実態調査 (WG-1) ②適合性評価の動向調査 (WG-2) ③公益法人、公的機関などとの交流・調査及び講演会 (WG-3) 2. 委員会構成 企業委員 12社 12名 委員長 : (株)日産アーク 山口主管 副委員長 : 日鉄住金テクノロジー(株) 岸本上席主幹 副委員長 : (株)住化分析センター 道德部長	準備委員会	4/16開催済。前期の振り返りと今期の進め方について討議した。
		委員会	①6/11 ②7/9 ③9/10 ④10/15 ⑤11/19 ⑥12/10 ⑦1/22 ⑧2/18 ⑨3/18
		アンケート調査	検査・分析業の実態について、これまでの調査をベースに、海外展開の状況、技能伝承の視点なども含めたアンケートを513機関に郵送し、196機関から回答を得た。
		国内訪問調査	9/17-18 食の安全に関し、韓国や中国の食品の輸入が急増している北九州地区において、福岡検疫所、門司税関本関、北九州生活科学センターの3箇所を訪問調査した。 12/18 食の安心、安全のテーマから、さいたま市の農林水産消費者安全技術センター (FAMIC)を訪問調査した。
		講演会	東京大学 准教授 三田吉郎氏を講師として呼び、「超短TAT最先端微細加工で拓(ひらく)小規模多品種CMOS-MEMS」を7/9に実施した。
(JKA補助事業) つづき	1. 目的、内容 研究開発において多くの業界・企業が共通で抱えている課題等について、斯界の識者からさまざまな視点からイノベーションの創出に向けた取り組みについてご講演をいただき、将来に向けた持続性のあるイノベーション実現に向けた鍵、課題等を議論する。	シンポジウム	2/14 シンポジウム「コトづくりへの挑戦」@コクヨ・コミュニティ・サロンを開催 ・基調講演「コトづくりへの挑戦」 立命館大学 ザイン科学研究センター長 善本哲夫准教授 ・事例紹介1「エネファームの実用化」 東京ガス 燃料電池事業推進部 燃料電池開発Gマネージャー 西崎邦博氏 ・事例紹介2「笑顔あふれる未来を創るスマートコミュニティへの挑戦」 東芝 コミュニケーション事業部シンセシスセンター 参事 伏屋信宏氏 ・事例紹介3「モノづくり企業からコトづくり企業へ」 コクヨファニチャー チーフコンサルタント 坂本 崇博氏 ・コトづくり事例研究ワークショップ 3/10 シンポジウム「百歳を健康に生きられる社会の実現に向けて」 ー健康長寿社会を支える健康モニタリングと情報活用ー @JASSO国際交流会会議場を産総研との共催にて開催 ・「健康サービスにおけるゲノムコホート情報の位置づけ」 東北メディカルメガバンク機構長 山本雅之氏 ・「リスク情報としての周産期～小児健康情報の活用に向けて」 香川大学 名誉教授、徳島文理大学 教授 原量宏氏 ・「こころと体の健康情報がもたらすもの」 産総研 健康工学研究部門長 吉田康一氏 ・「歩行情報に基づく健康サービスから生活デザインまで」 産総研 デジタルヒューマン工学研究センター長 持丸正明氏 ・「健康・医療情報の活用に向けた課題と対策」 東芝 ヘルスケア事業 ニューコンセプト開発部長 高山卓三氏 ・パネルディスカッション 3/10-14 「粒子光計測国際会議 2014」 @産総研臨海センターにて協賛で開催。
	1. 目的、内容 理系進学・就職学生の減少の中で、次世代の研究開発人材たる学生等へ研究開発の魅力を伝えるため、現役の企業研究者・管理者等を全国7地区に派遣し、出張講義を行う。	出張講義・交流	目利きコミュニティ委員会と共同 福井大学 工学部シンポジウム開催準備を進めたが日程が合わず、今年度は延期。

		目的・体制等	平成25年度活動の進捗状況	
標準化委員会活動 (JK A補助事業)	新エネ素子の開発加速に資するナノ領域元素分析標準化検討委員会	1. 目的、内容 将来急成長が期待される技術領域では、国際標準規格づくりに先手を打つことが重要である。中でもナノテクノロジー分野の中核技術として製品品質を高精度に保証するための分析技術の標準化が不可欠であり、その標準試料と標準分析手法を検討する。	実施内容	ナノテクノロジーの先端分析の国際標準規格を目指して、ナノ領域の元素分析を対象として標準試料と標準分析手法を検討。 わが国が主導的立場にある I S O T C 2 0 2 の S C 3 委員会の次期検討テーマにつながる分析試料と分析手順 (EELS) を対象とし、産業技術総合研究所・標準化担当グループと連携し、共通試料の試作およびその評価についての検討を国内有力分析機関と協力して実施。
		2. 体制 検討委員会を組織し検討。 委員長 産業技術総合研究所 計測標準研究部門 ナノ材料計測科 表面・ナノ分析研究室 黒河室長 委員 学識経験者 1名、独法委員 2名、企業委員 12名	評価試験など	ナノテク高機能材料のうちエネルギー問題解決を念頭に、ナノ領域元素分析の対象となる共通試料・分析手法 (EELS分析、SIMS分析) について実証検討実施。
			委員会	① 5/29、②7/26、③10/11、④12/6、⑤2/7
技術交流活動 (JK A補助事業)	産業技術重点分野技術交流	1. 目的、内容 産業界と独法研究機関及び大学・国公立研究機関との連携により、組織の枠を超えたライフイノベーション、グリーンイノベーション分野での横断的研究情報・研究成果の交換・交流を可能にする「場」の実現を目的とする。このため、今年度は、先導技術検討委員会の企画のもとに、2つの研究会を設け活動を展開する。	先導技術検討委員会	<先導技術検討委員会> 8/2 第1回委員会 3/12第2回委員会 予定
		2. 研究会構成 (1) 先導技術研究会 委員長：(株)安川電機 つくば研究所 所長 横山和彦氏 委員：13名 オブザーバー：2名 (2) 先進医療機器技術研究会 委員長：東京電機大学 工学部 土肥健純教授 委員：7名 オブザーバー：5名	講演会	5/21 第1回 講演会 東京本部会議室 「バイオマスエネルギーとバイオマスリファイナリー技術の現状と将来」 (独)産業技術総合研究所イノベーション推進本部 国際部審議役 坂西欣也氏 参加者：16名 8/2 第2回 講演会 東京本部会議室 「ビッグデータからオープンデータとその利活用」 (独)産業技術総合研究所 情報通信・エレクトロニクス分野 副研究統括 関口智嗣氏 参加者：23名 10/15 第3回 講演会 アカデミー湯島視聴覚室 「建築物および土木インフラの先端的構造ヘルスマonitoring技術」 清水建設株式会社 技術研究所 安全安心技術センター 主任研究員 白石理人氏 参加者：20名 11/13 第4回 講演会 東京本部会議室 「海洋資源探査技術の現状とこれから」 (独)海洋研究開発機構 海洋工学センター長 磯崎 芳男氏 参加者：15名 1/8 第5回 シンポジウム JST東京本部サイエンスプラザ (東京4番町) 「次世代バイオ医薬品への挑戦(3)～次世代バイオ医薬品開発における糖鎖の重要性と研究開発方向～」 基調講演：「バイオリジクスにおける糖鎖のインパクト」 (一財)聖路加国際メディカルセンター 医療イノベーション部 部長 入村達郎氏 技術講演「バイオ医薬品開発におけるバイオアナリシスの世界調和の動向」 (株)島津テクノロジー 医薬・ライフサイエンス事業部執行役員事業部長工藤忍氏他 3件 参加者143名 1/29 第6回 講演会 東京本部会議室 「次世代ロボット研究開発動向」 (独)産業技術総合研究所 知能システム研究部門長 比留川博久氏 参加者：23名

		目的・体制等	平成25年度活動の進捗状況	
技術交流活動 (JKA補助事業) つづき	産業技術重点分野技術交流 (つづき)		先進医療機器技術研究会	<p>7/5 第1回 講演会 東京本部会議室 「医療機器開発におけるヒューマンセントリックな発想について -手術ロボット、手術支援システムを例に-」 東芝メディカルシステムズ(株) 南部恭二郎氏 参加者 23名</p> <p>10/2 第2回 講演会 東京本部会議室 「産総研における医療機器開発の取組み」 (独)産業技術総合研究所 ヒューマンライフテクノロジー研究部門 副研究部門長 鎮西清行氏 参加者 13名</p> <p>12/6 第3回 講演会 東京本部会議室 「超音波診断・治療機器の現状と将来」 東京農工大学大学院特任教授/株式会社MU研究所代表取締役 望月 剛氏 参加者 13名</p> <p>2/24 予定 第4回 講演会 東京本部会議室 「最新の内視鏡と技術開発について」 オリンパス株式会社元社長 高山修一氏</p>
独自調査活動	目利きコミュニティ委員会	<p>1. 目的、内容 研究開発OB人材の登録・活用制度をH23年度よりスタートし、産業貢献、社会貢献、国際貢献での有効なOB人材活動に向けた具体的な活動企画推進を行う。</p> <p>2. 委員会構成 委員長：東洋大 総合情報学部 大場教授 委員：企業委員 3名 学識委員 2名 公的機関委員 3名</p>	委員会	①8/8 ②11/24 ③3/4予定
			活動	<p>産業貢献：五感に関する測定・表現法の検討(平成26年度機械システム振興協会受託予定)</p> <p>社会貢献：大学・工専での理工教育・交流 福井大学 工学部シンポジウム開催準備</p> <p>講演会：「東京大学大槌イノベーション協創事業」 東京大学大槌イノベーション協創事業 運営代表 太田与洋氏</p>

		目的・体制等	平成25年度活動の進捗状況	
(経済産業省受託事業 東事 業局)	平成25年度 戦略的基盤技術 高度化支援 事業「角形 チップ用フォ トリジスト塗 布装置・現像 装置の開発」	<p>1. 目的、内容 角形チップ用のフォトリジスト塗布装置と現像装置を開発する。装置性能をマイクロめっき技術への適用によって検証する。これにより角形チップ単位でのリソグラフィ加工を実現し、3次元実装技術等を使った電子部品の研究開発コストの低減と開発・生産工期の短縮を可能にする。市場導入に向けて、10mm×10mmのサイズの角形基板に対応できる装置を開発する。</p> <p>2. 体制 研究開発参加機関：リソテックジャパン（株）、九州大学、（独）産業技術総合研究所、（株）オジックテクノロジーズ 統括研究代表、副統括研究代表（研究開発指揮） 統括研究代表：リソテックジャパン（株）扇子義久Group長 他研究参加者 9名 研究推進委員会（進捗管理） 参加者：研究開発担当者8名、アドバイザー2名(村田製作所、 産総研) 事務局：当協会（契約、管理、経理、会議支援）3名</p>	実施内容	<p>本研究開発の成果により、3次元実装技術や部品内蔵型基板技術を用いた高密度集積電子部品・デバイスを低コストで開発し、少量多品種対応で生産することを可能にすることができ、上記高度化目標の達成に貢献できる。技術的な目標は、「一辺10mmの角形チップの表面に、高密度マイクロパンプのめっきによる生産が可能な厚さのフォトリジストを均一に塗布する」ことである。ユーザーに提供する装置に要する具体的な数値目標は以下のとおりである。本年度は特に、レジスト塗布現像装置の改良、表面処理装置の改良に注力し、3D LSI対応技術の完成を目指す。</p> <p>【1】角形チップ用フォトリジスト塗布装置の開発/チップサイズ：10mm×10mm、周辺不均一領域：11mm²以下、均一性：厚さ10ミクロン±5%、レジスト膜厚：10ミクロンまで可、大きさ：幅294mm×高さ1440mm×奥行き450mm</p> <p>【2】角形チップ用フォトリジスト現像装置の開発/線幅均一性：線幅3ミクロン±5%以下(厚さ10ミクロン)、大きさ：幅294mm×高さ1440mm×奥行き450mm</p> <p>【3】3D LSI対応技術の開発/チップサイズ10mm×10mmでのめっきパンプ形成、20ミクロンピッチで1万ピンの接合</p>
		研究推進委員会等	<p>9月11日 第1回研究推進委員会 9月11日 第1回研究開発会議 10月 中間検査 1月16日 中間評価 1月16日 第2回研究開発会議 2月21日 第2回研究推進委員会 3月 確定検査</p>	

		目的・体制等	平成25年度活動の進捗状況	
受託事業 (経済産業省 商務情報政策局)	平成25年度 課題解決型医療機器等開発事業「様々な内視鏡手術に対応する先端機能交換型極細径屈曲鉗子の研究開発」	<p>1. 目的、内容 近年da Vinci手術ロボットをはじめとする内視鏡手術用の多自由度マニピュレータの開発が進んでいるが、実用化されているのは欧米企業数社のみであり、国内では未だ実用化には至っていない。また極細径（外径3mm以下）で製品化されているものはほとんどない。本研究では、先端機能（把持鉗子や剪刀など）を容易に着脱可能であり、±90°以上の大屈曲が可能な外径3mm以下の極細径屈曲鉗子の開発・薬事申請を行い、国産で、様々な内視鏡手術に有用な手術器具の実用化を目指す。</p> <p>2. 体制 研究開発参加機関： （株）スズキプレシオン、（独）国立成育医療研究センター 総括研究代表、副総括研究代表（研究開発指揮） 総括研究代表：国立成育医療研究センター 臨床研究センター 研究員（非常勤職員）山下紘正 副総括研究代表：（株）スズキプレシオン 取締役会長 鈴木庸介 他研究参加者12名 研究推進委員会（進捗管理） 委員長：臨床研究センター研究員（非常勤職員）山下紘正 委員：国立成育医療研究センター等より5名、 アドバイザー：福島県立医大 藤森敬也教授、 信州大 本郷一博教授 事務局：当協会（契約、管理、経理、会議支援）5名</p>	実施内容	<p>先端機能を簡便に着脱可能なモジュール型の極細径屈曲鉗子を開発するために必要となる要素技術を完成し、様々な内視鏡手術に対応可能なシステムを完成させる。以下の屈曲機構及び先端機能の着脱機構については、主に（独）国立成育医療研究センターが設計・解析を行い、（株）スズキプレシオンが試作及び加工プロセス制御の観点から評価を行う。本年度は以下の3つの研究開発要素（極細化、屈曲角度増大、モジュール化）につき、実用レベルの設計（強度解析含む）を行い、試作機を完成する。特に、先端機能モジュール化については早期の製品化を目指す。完成した屈曲鉗子については、（独）国立成育医療研究センターが仕様として設定した屈曲駆動が可能かどうかを、動物実験等による前臨床実験で評価する。</p> <p>① 屈曲鉗子の極細化、② 鉗子の屈曲角度の増大、③ 先端機能のモジュール化、④ 屈曲鉗子の動物実験等による前臨床評価、⑤ 屈曲鉗子の薬事申請準備、⑥ 事業化の調査検討、⑦ プロジェクトの管理・運営。</p>
			研究推進委員会等	<p>7月16日 第1回研究推進委員会 10月16日 第2回研究推進委員会 12月 中間検査 12月25日 経産省との打ち合わせ 1月29日 有識者会議（継続審査）（予定） 3月 確定検査</p>

		目的・体制等	平成25年度活動の進捗状況	
自主活動	産業研究協会世界連合(W-FIRA)	<p>欧州の類似機関の欧州産業研究マネジメント協会(EIRMA)とのMOUをベースに、平成25年5月21日に、米国ワシントンにおいて、産業研究協会世界連合(W-FIRA)が発足し、日本からは、当協会が設立メンバーとなった。このW-FIRAを通じて、グローバルな産業技術に関する人的ネットワークの拡大と欧米等における研究開発マネジメント等の会合との交流を深める。</p> <p>W-FIRAメンバー国の総会、CTOフォーラム、専門家会合等に参加するとともに情報交換等を行う。</p>	協定調印	5月21日に米国ワシントンで、W-FIRAの調印式挙行。創設メンバーは、日本より当協会、他は米国産業研究所(IRI)、ヨーロッパ産業研究マネジメント協会(EIRMA)、オーストラリア産業研究グループ(AIRG)、韓国産業技術協会(KOITA)、ブラジル革新的企業研究開発協会(ANPEI)の6団体。
			IRI会合参加	5月21日から23日に、W-FIRA調印式と同時に開催されたIRIの75周年記念事業及びCTO会合「グローバル経済とイノベーション」に、(株)IHI技術開発本部 副本部長基盤技術研究所 村上晃一所長と協会専務参加
			EIRMA会合参加	①10月3、4日EIRMAの主催するアントワープでのイベントに参画することで、欧州企業における価値創造に関し、研究開発部門がどのように寄与しているか、基本的な考え方と企業の取り組み事例を通じて調査した。調査研究部 嵩部長が参加。 ②10月24日スイスのウィンタースールのスイス科学センターテクノラマで開催されたCTOフォーラム「革新能力に注目し、如何にそれを研究開発の能力に形成するか」に、(株)IHI技術開発本部 張 惟敦本部長補佐が参加。
			共同寄稿文の作成	W-FIRA参加の6機関がそれぞれの国、地域の「2014 and beyond, R&D Trend Forecast」について寄稿文を作成。
			ANPEI会合参加	平成26年4月28日、29日にサンパウロで開催予定の設立30周年記念会合「イノベーション・アクション：競争的ビジネスモデル」会合に、日鉄住金テクノロジー株式会社中村良昭社長が参加予定。

		目的・体制等	平成25年度活動の進捗状況	
自主活動 つづき	CTO交流会	<p>・企業CTOクラス*の交流機会 (*：協会の理事会社では理事クラス、理事会社以外の会社では協会にお届けいただいた会員代表者クラス、あるいは研究所長など、研究開発の管理責任者の方々) ・2ヶ月に1回開催(原則偶数月の第3木曜日) ・8：00開催 講演と朝食会形式</p> <p>上記に加え、第34回から講演と夕食会形式の交流会を開始。 ・2ヶ月に1回開催(原則奇数月) ・18：00開催 講演と夕食会形式</p>	4/18 第32回 (朝)	「強い日本を再びー日本の産業の復活とその技術戦略ー」 (株)JVCケンウッド 代表取締役 河原春郎氏 [参加者] 15名
			6/20 第33回 (朝)	「福島第一原子力発電所の廃止措置の現状と研究開発」 東京電力株式会社 執行役員開発計画部長 兼 技術開発研究所長 矢野正吾氏 [参加者] 13名
			7/23 第34回 (夕)	「臥龍経済日本の製造業の行方ー潜在日本イノベーション能力は発揮されるかー」 政策研究大学院大学 教授 橋本久義氏 [参加者] 11名
			9/3 第35回 (朝)	「シェールガス革命とは何か」 独立行政法人石油天然ガス・金属鉱物資源機構(JOGMEC) 上席研究員 伊原 賢氏 [参加者] 12名
			9/26 第36回 (夕)	「グローバル企業のイノベーションへの挑戦ーIBMの事例から」 日本IBM株式会社 ソリューション・プログラム・エグゼクティブ 伊藤久美氏 [参加者] 7名
			10/18 第37回 (朝)	「電子・情報分野及びナノテク・材料分野におけるナショプロ成功事例と今後のナショプロのあり方」 独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構(NEDO) 電子・材料・ナノテクノロジー部長 岡田 武氏 [参加者] 6名
			12/9 第38回 (夕)	「TOTAL の研究開発政策」 TOTAL S.A. 国際科学技術部担当ヴァイスプレジデント Prof. Dr. Ing. Philippe A. Tanguy氏 [参加者] 10名
			1/21 第39回 (夕)	「総合科学技術会議の新プログラムSIP/ImPACT等について」 内閣府 大臣官房審議官(科学技術政策担当) 中野 節氏 [参加者] 12名
			2/19 第40回 (朝)	「3Dプリンターの現状、未来への展望」 話題提供者：東京大学生産技術研究所 付加製造科学研究室 教授 新野俊樹氏 [参加者] 名
			検査分析ハイ レベル会合	<p>検査分析業の役員クラスの人的ネットワークの場 ・検査分析業の発展を目指して、基準認証及び国際相互承認の新しい流れや製造現場の海外移転等の環境の変化に対応して、検査分析業の置かれている現状、課題、今後の方向についての検討、意見交換を行う。</p>
11/27 第2回	「NITEにおける最近の事業展開」 独立行政法人製品評価技術基盤機構(NITE) 理事 河本光明氏 [参加者] 8名			
3/4 第3回	「テュフ ラインランド ジャパンの事業戦略と最近の活動状況について」 話題提供者：テュフ ラインランド ジャパン株式会社 執行役員 戦略部門担当 R・ロレンツォーニ氏 官庁・産業界対応室 シニア エキスパート 終平 洋夫氏			

		目的・体制等	平成25年度活動の進捗状況	
自主活動 つづき	研究産業技術懇談会	<ul style="list-style-type: none"> 研究開発あるいは研究開発の実用化などに関係する部長、課長クラスの方々の交流機会（官庁、大学の方々も含め。） 月1回開催(原則第3水曜日) 16:30開催 講演30分、質疑応答・議論45分 提供いただいた話題を中心に議論・懇談。適宜、軽食などで気軽に。 	4/15 第54回	「我が国化学産業の現状と化学技術政策」 経済産業省 製造産業局 化学課 機能性化学品室 室長 山崎知巳氏 〔参加者〕 12名
			5/15 第55回	「国土交通省技術基本計画と平成25年度関連技術政策について」 国土交通省 大臣官房技術調査課 課長補佐 林 利行氏 〔参加者〕 14名
			6/13 第56回	「中長期研究インターンシップの促進を目指して」 経済産業省 産業技術環境局 大学連携推進課 産業技術人材企画調整官 大家利彦氏 〔参加者〕 10名
			7/11 第57回	「ビッグデータの利活用に係る総務省の取組」 総務省 情報通信国際戦略局 情報通信政策課 課長補佐 橋高徹哉氏 〔参加者〕 11名
			7/22 第58回	「文部科学省におけるイノベーション創出に向けた新たな取組 (COI STREAM) ～今の夢。10年後の常識。新しい未来を作りたい。～」 文部科学省 科学技術・学術政策局 産業連携・地域支援課 課長補佐 藤森昭裕氏 文部科学省 科学技術・学術政策局 産業連携・地域支援課 中出雅大氏 〔参加者〕 17名
			9/25 第59回	「情報セキュリティを巡る状況について」 経済産業省 商務情報政策局 情報セキュリティ政策室 産業分析研究官(電子・電機産業担当) 福田 賢一氏 〔参加者〕 11名
			10/31 第60回	「情報家電の最新動向と経済産業省の取組」 経済産業省 商務情報政策局 情報通信機器課 情報家電戦略室長 江澤 正名氏 〔参加者〕 12名
			12/5 第61回	「省エネルギー・再生可能エネルギーの技術の現状と関連施策」 経済産業省 資源エネルギー庁 省エネルギー・新エネルギー部 政策課 課長補佐 中山 英子氏 〔参加者〕 13名
			2/13 第62回	「トヨタの環境技術開発への取組み」 トヨタ自動車株式会社 東京技術部 グループ長 愛甲 英史氏 〔参加者〕 27名

		目的・体制等	平成25年度活動の進捗状況	
広報活動	活動成果発表会	当協会の過年度事業の内容を発表し当協会の活動を広くアピールする。	活動成果発表会	平成24年度活動成果発表会 H25. 6. 4 機械振興会館 報告会：B3 第1研修室 懇親会：B3-2会議室 〔参加者〕 51名 〔懇親会参加者〕 32名
	情報提供	協会の中から会員へ向けた情報発信	ホームページ	<ul style="list-style-type: none"> ・平成24年度報告書及び平成24年度・平成25年度の事業に関する公開情報をそれぞれのページに掲載。 ・会員専用ページに、平成24年度成果報告書や各イベントの資料を掲載。 ・各委員会委員専用ページに、委員会資料等を掲載。 ・これらは随時更新。
			JRIAニュース	電子メールによる会員、一般向け広報 (原則月例)
			情報提供	産業技術政策関係情報の提供(経産省/NEDO/JST/総務省等の情報)

		目的・体制等	平成25年度活動の進捗状況
会務	総会	1. 目的、内容 協会の事業・運営に関する事項について審議決定。 2. 体制と出席者 会長・副会長・専務理事、会員代表者、経済産業省	第1回通常総会 H25. 5. 31 10:00～11:30 KKRホテル東京（出席34名）
	理事会	1. 目的、内容 協会の事業・運営に関する事項について審議決定。 2. 体制と出席者 理事・監事	第1回 H25. 4. 9 書面 第2回 H25. 5. 16 書面 第3回 H25. 5. 31 11:45～11:55 KKRホテル東京 第4回 H25. 9. 11 15:45～15:55 KKRホテル東京 第5回 H26. 3. 11（予定）
	総合役員会	1. 目的、内容 原則として理事会前に開催。 協会の事業・運営に関する事項について審議。 3. 体制と出席者 理事・監事・幹事	第1回 H25. 5. 13 書面 第2回 H25. 5. 31 11:30～11:45 KKRホテル東京 第3回 H25. 9. 11 15:00～15:40 KKRホテル東京 第4回 H26. 3. 11
	運営委員会	1. 目的、内容 ・協会の運営、事業の推進等の議論を行うと共に入会予備審査を実施。 ・原則として総合役員会前に年間3～4回開催。 ・委員会による企画立案機能を強化するため、運営委員会で企画・評価を実施。 2. 体制と出席者 理事会社及び監事会社から選出された委員で構成 運営委員 17名	第1回 H25. 4. 25 15:00～17:00 協会会議室 第2回 H25. 8. 29 15:00～17:00 協会会議室 第3回 H26. 2. 27 15:00～17:00 協会会議室
	企画・評価 ワーキンググループ	1. 目的、内容 ・会員各社の要望に応じて活動を行っていくために、協会の事業に関する企画及び評価機能の強化の目的で設置。 ・原則として年度初めに1回開催 ・運営委員に替わり企画の討議を行う、また、評価では外部識者を入れた討議を行う。 2. 体制と出席者 運営委員会の中核的メンバーと外部有識者による評価委員で構成 委員 7名 委員長：(株)IHI 技術開発本部 技術企画グループ 笠部長	第1回 H25. 4. 18 15:00-17:30 協会会議室
	一般社団法人 移行事務	1. 目的、内容 ・本年度一般社団法人へ移行	H25. 4. 1 登記完了
その他	技術研究組合 運営懇談会 事務局	技術研究組合運営懇談会の事務局業務の受託	技術研究組合運営懇談会の事務局業務を実施した。